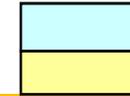


# ポーランド出張報告

4月1日（金）～4月5日（火）



## 1 目的

- ウクライナ周辺国で最多260万人の避難民を受け入れているポーランドの状況を視察し、ウクライナ避難民受入れに関するニーズ等を的確に把握し、今後の支援策に繋げる。

## 2 主要日程

- 避難民施設視察、国際機関・NGOとの意見交換、国境施設視察、ポーランド要人会談(大統領、首相、外相)、ジェシュフ連絡事務所訪問（「避難民支援チーム」激励）



## 3 避難民施設及び国境施設視察と支援ニーズ

- 避難民の9割近くが女性と子供。高齢者や身体障害者も少数ながら滞在。施設内では、国内外への移動、医療、就労支援、教育など、個々人の希望ごとの窓口を設置。子供用のプレイルームや心理カウンセリングルームもあり。
- 国境施設では、当初は一日数千から数万の避難民が押し寄せていたが、現在は落ち着き、現在のポーランド入国は数百人程度。ボランティア団体が炊き出しや子供が暖を取るテントを設置。

⇒(支援) 「ほっとできる」人道支援（生活給付、医療、教育、心理的支援、言語サポート）

## 4 国際機関及びNGOとの意見交換

- ワルシャワ（UNHCR、WHO、IOM、WFP、ポーランドNGO）及びジェシュフ（UNHCR、OCHA、IOM）での意見交換において、避難民の尊厳を大切にすることが必要であり、現金給付は選択の自由があり尊厳を大事にする制度。孤児について、背景事情の調査・人身取引被害防止が必要。日本の災害復興の知見の共有、資金支援に期待。

⇒(支援) 「尊厳」を守る支援(特に子ども)、災害復興の知見提供、人身取引犯罪対策、資金支援

## 5 ポーランド要人（大統領、首相、外相）

- ポーランド政府にとっての財政負担が大きく、日本を含む国際社会からの支援に期待。
- 特に子どもについて、人身取引犯罪被害、難病の子どもの支援が問題。

⇒(支援) 子ども支援（人身取引犯罪対策、医療）、資金支援 + ICCへの協力

ウクライナ避難民施設視察 於：グローバルエキスポ



社会保障番号登録現場視察 於：国立競技場



## 国際機関・NGOとの意見交換 於：ワルシャワ



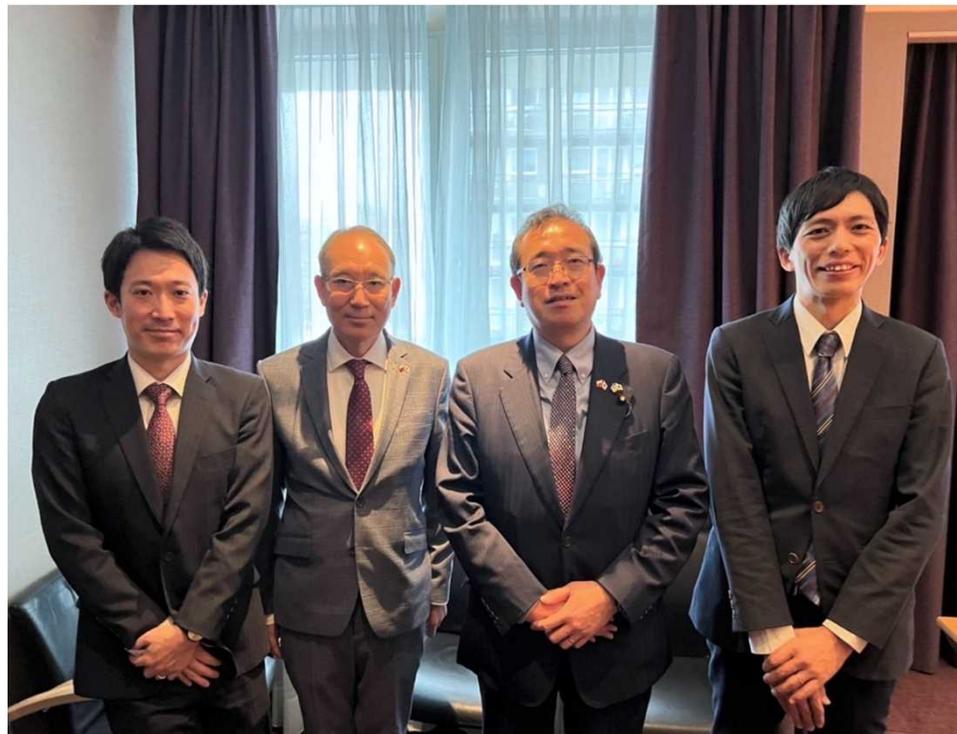
出席機関：国際移住機関（IOM）、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、世界保健機関（WHO）、国連世界食糧計画（WFP）、NGO（ポーランド人道行動、カリタス・ポルスカ）

## 国際機関・NGOとの意見交換 於：ジェシュフ



出席機関：国際移住機関（IOM）、国際人道問題調整事務所（OCHA）、  
国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

## 「ウクライナ避難民支援チーム」の激励



入管庁からワルシャワへ派遣された職員2名



ジェシュフ連絡事務所

# 国境付近視察 於：メディアカ



# ジェシュフ連絡事務所視察



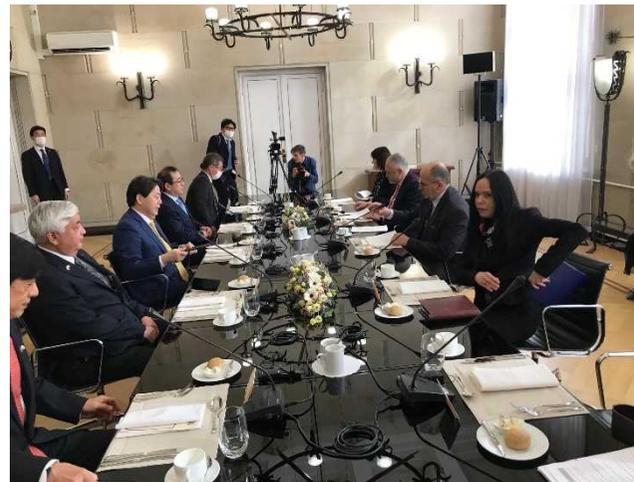
## ポーランド要人会談



モラヴィエツキ首相との会談



ドゥダ大統領との会談



ラウ外務大臣との会談

## 総括



無名戦士の墓における献花



ワルシャワ蜂起博物館



大使館員との集合写真